

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401194		
法人名	株式会社 はくりよう		
事業所名	グループホーム エルムの家 1階		
所在地	札幌市西区八軒5条東2丁目4番16号		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170401194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170401194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>和顔愛語 ～思いやりの心～</p>
----------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム エルムの家」は、JR八軒駅から徒歩5分ほどの住宅地に立地している3ユニットの事業所である。近隣には公園や飲食店、スーパーマーケットや金融機関もあり生活の利便性が高い。建物内は明るく開放感のある造りで、季節の装飾や利用者の作品などが飾られており家庭的な温もりが感じられる。管理者を中心に各ユニットリーダーが職員の意見や提案を聞き取り、トイレへの動線を分かりやすく表示して排泄の自立に向けた取り組みに活かしたり、看取り対応になった利用者が少しでも他の方々の声を聞きながら穏やかに過ごせるような対応について区役所に相談するなど、全職員で一人ひとりの利用者が安心して落ち着いた生活ができるように支援している。感染症流行のため以前のような個別支援での外出ができなくなったが、流行状況を見ながら近隣の散歩や花見ドライブ、花壇での花植えなど外気に触れる機会を積極的に取り入れている。馴染みの方との交流では、親族から贈り物などが届いた時に本人が一言でも書けるように職員が支援し、お礼のハガキを出す新たな取り組みも行っている。家族には、毎月利用者担当職員による手書きの手紙を送っている。管理者を中心に全職員で学びを深め、利用者と家族が安心できるような質の高い温かなケアを目指して日々熱心に取り組んでいる事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「和顔愛語」は常に目に付きやすい所、来訪者の目に付きやすく、スタッフルーム等に掲示。また地域の行事等に住民の一員として親睦交流を図り、日々の実施に結びつけるよう取り組んでいる。	理念の「和顔愛語」とともに、地域、家族との連携についての考えを事務所などに掲示し、新人研修で説明している。定期的に地域や家族との連携について再確認し、地域密着型サービスの意義について更に共有していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防にてエルム祭の中止、幼稚園児との交流会は状況改善後の交流再開を目指して電話のやり取りをしています。町内会の草取りの際には飲み物を届ける等の交流があります。	感染症流行前は保育園児が来訪して歌を披露したり利用者と一緒に季節の作品作りを楽しんでいた。現在は感染状況を見ながら地域のお店に出かけたり、散歩で近隣住民と挨拶を交わす程度になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人々との支援関係は深めることは出来ませんでした。散歩にて近隣の花壇を見学させて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文章会議を開催し、御家族、地域包括センターの方、町内会、民政委員の方々に参加して頂いています。資源回収の参加	感染症流行のため2か月ごとに書面会議を開催し、構成メンバーや家族の意見も順番に聞き取り、議事録を全家族に送付している。新型コロナウイルス感染症や食中毒、熱中症対策など事業所の対応についても報告している。	事前にテーマを設定して質問や意見を聞いたり、議事録に参考資料などを添付して情報提供するなど、更に書面会議の内容が充実するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍にて開催はなく、文章にて情報交換しています。必要に応じ区役所を尋ねたり電話連絡にて意見を求めアドバイスを受け実施しています。	感染症流行のため、メールや電話でのやり取りが多くなっている。区役所に看取りの利用者のリビングでの過ごし方について相談したこともある。普段から担当者と情報交換しながら相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間の防犯を除きしていません。利用者様の行動を制限することの無いよう徹底しています。身体拘束についての研修会をケース会で催しそれをもとに事例検討に努めて拘束をしないケアに取り組む、家族と話し合いをする事で拘束しないケアに取り組んでいます。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した指針を作成している。現在は資料を配布し、レポート提出形式の勉強会を年3回実施している。禁止行為11項目についても勉強会で再確認したいと考えている。身体拘束適正化委員会の議事録と勉強会資料を見やすく整備する意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を各階でケース会議で催し、それをもとに事例検討に努め、虐待のない利用者様の尊厳を保つケアに取り組んでいます。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各階小冊子を目のつく所に掲げ利用者、ご家族の希望に応じ、各制度の利用を理解して対応・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、理解・納得をいただいています。必要時には文章を作成し、ご家族より署名捺印をいただくことで、その都度納得・ご理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度、運営推進会議を文章会議とし、意見や、要望を取り入れ、家族から積極的な意見を頂き、それらを運営に反映させている。	来訪時や電話で家族の意見や要望を聞き取り連絡ノートや個別ファイルに記録しているが、些細な言葉なども記録して更に情報を共有したいと考えている。年3回「エルム新聞」を発行し、毎月個別の手紙を送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より、意見交換がしやすい環境に努めております。また玄関には「意見箱」を設置しております。	管理者やユニットリーダーが普段から職員の意見や要望を聞き取り、ケアや運営に反映させている。職員の提案でトイレへの動線を分かりやすく表示し、排泄の自立に向けた取り組みに活かした事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長・ホーム長(管理者)・、各階の職員、利用者様に声をかけてくださっており(出勤時欠かさず)、勤務状況や個々の声など聞き入れてくれます。就業規則の見直しなど、職員が働きやすいように配慮してくれます。また、ケース会議の場で意見交換を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へ情報提供し勉強会を開き、共有しています。感想、意見をもらっています。本年度は消防署での研修会、実践者研修に出席しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回は交流の場がなく、文章で意見交換してます。空室情報等の共有。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談より本人の希望を聞き、コミュニケーションを取り、安心感を得ています。又、アセスメントを通してのサービスの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面談、説明、契約時、電話でのやり取りなどの際、困っている事、不安な事などを話しやすい場を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネージャーを含めたカンファレンスの開催をしています。利用者様の背景を尊重し、本人と御家族を安心していただけるよう支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のプライドを傷つせず 押し付けにならないよう、家族のような気持ちで状況を見極めた言葉掛けや支援をするよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかにご家族と連絡を取り合う事で、意思疎通を図り、ご本人とご家族を支え合う関係を築けております。また、月に一度、近況を知らせる文章を送っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望を大切に、レクリエーションの場などで、長年間で培ってきた人生を振り返って頂いたりしています。	高齢になり知人や友人との交流はほとんどなくなりましたが、親族から手紙や贈り物が届いた時は職員が支援してお礼のハガキを書いている。近くの公園を散歩したり、馴染みの農試公園で花見を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中に、一人ひとりの尊厳を大切に、お互いの信頼関係を持てるように 職員が輪の中に入り支援につとめています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法要の際には、お花を届けたり参加もしています。コロナ禍でお見舞いに伺ったりはできませんでしたが、電話のやり取りなどで相談や支援に努めています。コロナ禍の以前には家族の思いにより、当ホームを会場にして、葬儀をとり行うこともありました(職員・入居者参加・少人数で)。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性や要望、趣味や個人レクリエーションなど その人らしさを大切にケアプランの作成・実行に努めています。	会話や表情、日常の様子などから希望や意向を把握している。センター方式シートを活用し、変化を追記しながら毎年更新しているが利用者により記録にばらつきがみられる。	全員のセンター方式シートの記録を充実させ、日々のケアや介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から、今までの生活に近い環境を教えていただき、その人らしく個性を生かせるサービスの支援を目指しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態、精神状況の把握に努め、個々の残存能力を十分に生かせるサービスの提供、ADLの維持・向上に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望を取り入れ、必要とされるケアサービス内容を作成。介護職員・看護師・各協力機関(歯科や治療院、薬局等)、計画作成者で連携しケアプランを作成・実行しモニタリングを行っています。	毎月のケース会議を基に利用者担当職員と計画作成担当者が中心に評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。家族や本人の意向を聞き取り1表に記入しているが、2表の短期目標やサービス内容に反映されていない。	家族や本人の意向を反映させ、1表と2表が連動した介護計画になるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容を毎日のチェック表にて記録・評価し、情報の共有、サービス向上への意見交換をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院受診時、家族対応出来ない時には車での送迎、美容、買い物など、連携により、個性を生かせるサービス提供を実行しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて町内のスーパーでの買い物や、近所の公園への散歩などで地域社会とのつながりをもつ事が出来ず、スーパー、ドラッグストアで買物の代行、心豊かな暮らしが出来るよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診、又、ご家族及び職員付き添いにて身体状況の把握、医師との信頼関係の構築(緊急時の対応、看取りの話し合いなど)連携を支援しています。	家族や本人の意向に沿ってかかりつけ医を継続している利用者もいる。外部受診は家族対応を基本としているが、現在は感染症流行のため事業所で支援している。「医療日誌」に個別に受診状況を記録している。	

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々体調の変化、身体状況の変化に注意し、報告・連絡に努めています。「看護医療日誌」、「温度板」を通じ情報を共有、常に連携を図っております。新型コロナウイルス対策において、細やかなアドバイスをもらい支援に努めている。抗原検査やPCR検査の実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の必要時には情報の相互交換により、スムーズな医療提供と長期入院にならぬよう協力しています。又、薬剤師との連携により退院後のケアに努めています。新型コロナウイルスの影響で面会が難しい状況でした。入退院の際必要であれば職員も同行。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、又心身状況の変化報告等の際、ターミナルケアについても家族等と話し合い、医師・看護師を含めたカンファレンスを行い理解をしていただき、終末期の支援へ取り組んでいます。看取りについても研修の場を設けております。	利用開始時に「重度化した場合における指針」に沿って事業所の方針を説明している。「看取り介護に関する指針」を作成し、家族の希望に応じて看取りも行っている。看護師による看取り研修も定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各階ケース会議などで、研修を行う事で、急変時の対応を訓練・実践しています。札幌防火管理者協会主催による第17回高齢者コース・令和4年12月16日参加予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全階あげでの避難訓練と、各ユニットごとに訓練を実施しています。各居室に分かりやすく色別し避難マニュアルを作成し、職員の意識を高めています。イメーjitレーニング実践・理解に努めています。災害マップの活用。	今年度は昼間の火災を想定した自主訓練を2回実施し、救命講習も職員数名が受講している。今後は、例年のように夜間を想定した避難訓練も実施し、地震時の個別対応についても再確認したいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性やプライバシーを尊重した言葉かけ、介助を行い個人の自尊心を傷つけないよう取り組んでいます。	利用者は「さん」付けで呼びかけているが、家族や本人の意向で愛称で呼ぶこともある。個人記録などの書類は事務所内の目の届かない所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で本人が訴えようとしている小さなサイン、感情表現を見逃さず、本人の意思を反映したサービス支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の好きな事や、一人ひとりの一日の生活ペースを大切に、意向に添った生活支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴やその人の身だしなみや化粧等へのこだわりなどを把握し、理美容や服装、おしゃれの支援を実践しています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(1階)	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し、盛り付けの工夫や食欲の出るメニューを心がけ、食器拭き等の手伝いもしています。	家庭のように食材状況を見て、利用者の意向なども聞きながら献立を決めている。誕生日には赤飯、寿司など本人希望のメニューを楽しんでいる。下ごしらえなどの調理に利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼・嚥下等の状態に合わせた食事・水分を心掛けております。また、夜間帯の水分もこまめに配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがいを施行し、義歯の洗浄を行い清潔を保っています。定期的に歯科往診を依頼しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、声掛けや誘導してトイレでの排泄、使用するパッド等の種類を工夫しています。オムツ、パッド代にかかる金額の負担を少なくするようにしています。オムツ利用券の制度を利用したりしています。	排泄チェック表に個別に記録している。日中は可能な限りトイレを利用し、夜間のみベッド上での交換もある。個々のリズムや時間帯に合わせ、適切な声かけや誘導を行っている。トイレへの動線をわかりやすく表示するなど工夫しながら排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけでなく、マッサージや体操、ヨーグルトや牛乳の摂取、食材の工夫により予防・対応に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に気を配り、順番や入り方を工夫し快適で気持ち良いと思っていただけるよう取り組んでいます。	毎日入浴が可能で週2~3回程度午後の時間帯を中心に入浴支援を行っている。同性介助にも対応しており、希望の入浴順や湯温など利用者の意向を汲んでいる。言葉かけを工夫し、快適に入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や睡眠パターンを考慮し、安眠出来るよう取り組んでいます。また、専門業者との連携により、週に1度清潔なりネンへの交換を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の体調変化を申し送りし、又医療連絡ノート等を参照し、症状や服薬の変化にも対応しています。Dr. やNSと連携しながら、薬剤師の方々とも話し合い、細やかな対応に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や個性に応じたレクリエーション等で気分転換をしたり、出来る範囲の役割分担で生きがいのある日々の支援をしています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて思うように希望を尊重するには、安全面を考慮すると対応する事が出来なかったり、家族の協力を願う事もままならない日々を過ごしましたが、夏の頃駐車場で日向ぼっこ、花だんへの水まき、花の苗植え、近所の散歩、ベランダでの日光浴、軽い運動が出来ました。	天候の良い日は近所の花壇を見ながら散歩したり、近隣のスーパーマーケットでの買い物、ベランダや駐車場でお茶を楽しむなど外気に触れる機会を設けている。ドライブで桜を見るなどの外出支援を行っている。感染症の収束状況に応じて、個別の外出支援なども再開していきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理が難しい方が多いので、ホームでお預かりしている中で、本人希望により買い物、購入しています。管理の出来る入居者には所持して使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会の機会がない時には、こちらから電話をかけて家族との交流に努め、手紙、プレゼントが届いた時には読んでさしあげたり、各時の居室に掲示したりして御家族や知人とのやり取りの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに工夫された掲示や、利用者様の作品、行事ごとの写真もご家族様の了解頂き楽しんで頂いています。誕生日やイベントによる装飾をし、利用者様・職員と共に楽しんでいきます。	リビングと食堂に大きな窓があり、室内は明るく、開放的なゆとりのある空間である。エアコンや温湿度計を設置し、快適に安心して過ごすことができる。ひな人形やクリスマスツリー、書初めなど季節に応じた装飾が施されている。利用者も制作に携わっており、家庭的で温かみのある共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の身体、心境等を考慮した椅子やテーブル設置で場所を工夫しています。又、それぞれの趣味を楽しまれています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には小物やご家族様の写真など、使い慣れた物や馴染みの物の配置に工夫し、穏やかに過ごせるよう配慮しています。	ベッドとカーテンが備え付けられている。机や椅子、タンスなど使い慣れた家具やテレビ、人形やアルバムなど馴染みの物を持ち込んでいる利用者もいる。壁には家族写真や季節を感じる凧も飾られており、利用者一人ひとりが過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故の無いよう環境整備に気を付け、トイレには目印を付けたり、各居室には名前を付け、分かり易く表示しています。。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401194		
法人名	株式会社 はくりよう		
事業所名	グループホーム エルムの家 2階		
所在地	札幌市西区八軒5条東2丁目4番16号		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和顔愛語 ～思いやりの心～
---------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=0170401194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=0170401194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和顔愛語」～思いやりの心～を理念に持ち、利用者様と心と心のケアを目標としています。理念は各階に掲げ常に意識を持てるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中にある保育園との交流は新型コロナウイルス対策にて中止とありますが電話連絡を行い状況改善後の交流再開を目指しています。又町内会長さんへ意見を求めるお手紙を郵送している町内公園の草刈りの際には飲み物を届ける等の交流があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資源回収への参加、町内会・近隣商店等との付き合いを通し、支援関係を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・利用者様・町内会・地域福祉施設の方・地域包括支援センターの方に文書会議の案内を出し会議に参加して頂き、意見交換を行っています。意見を元にサービス向上を目指しています。会議の中で身体拘束適正化委員会を開催しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ区役所を尋ねたり、電話連絡にて意見を求めアドバイスを受け、実施しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置。利用者の状況に合わせ、ご家族との十分な意見交換の上やむを得ない場合の安全確保に関する取り決め文書がある。その都度会議で内容の確認、見直しを行い拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を中心とした研修の実施。内容は各職員へ伝達するよう取り組んでいる。レポートの提出などを通し、意識の向上や知識技術等を習得して細やかな注意意識で見過ごさないよう取り組んでいる。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各階に冊子を目のつくところに掲げ、利用者、ご家族の希望に応じ、各制度の利用を理解し対応・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に電話連絡やホームの見学を実施。ホーム長・各階の管理者・ケアマネージャー・ケアワーカーを交え面談をし、御本人や御家族への理解を得て入居して頂いています。又、必要な時には文書を作成し理解につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。ティータイム等に利用者様の意見や要望を話し合う事もある。文書会議を実施し各ご家族へご意見要望等を尋ねてまとめ内容は文書とし各家族へ配布している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃、月1回のケース会議や勉強会など、意見交換が出来るやすい環境にあり取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、ホーム長(管理者)が各階の職員、利用者様に声をかけてくださる。月に1回の会議の場で勤務状況や個々の声など報告、職員が働きやすいように配慮し整備して下さい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各階の会議においても勉強会を実施している。外部研修を経て各資格を取得する事ができた。常に職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区グループホーム内での空室情報の共有や電話連絡。知り得た情報を公表しホーム全体でサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の送られてきた生活を理解し、御本人が慣れるまで職員の見守りやあらゆる場でコミュニケーションの場を作り、安心安楽な環境作りを努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来所された時はもちろん、電話連絡時も、困っておられる事や不安を尋ね相談させて頂き耳を傾けながら信頼関係を築けるよう取り組んでいます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長・各階リーダー・看護師・ケアマネージャー・ケアワーカーにて、カンファレンスを行い支援の話し合いの場を設け、体調面、精神面、生活の様子を把握。フロア全体で支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の身体的及び精神的な状態を考慮し、レクリエーションや家事、お手伝いに参加して頂き、共同生活する者同士の関係を築く工夫をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との絆を利用者様が実感できる様な支援をしています。毎月お手紙を郵送しエルムでの生活、現状の理解に努めています。又、受診の対応や必要な物品購入の声がけなど行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の送られてきた生活を理解し、御本人の希望を尊重し支援に努めている。ご家族・親戚等の電話連絡や窓越しの面会等を実施し交流支援を行っていました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、身体的・精神的な状態を考慮した上で、関わり合いを持てる様な場の提供(レクリエーションの企画、入居者様同士協力し行う作業の提供)		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法要の際には、お花を届けたり、お手紙等でフォローし支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に添える様、カンファレンスを行い、会話が難しい場合には日常生活のサインを見逃さないよう職員同士の情報交換等、思いや意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や馴染みを理解し、継続できることに関しては個性を生かしたサービスの支援を目指しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回のケース会議やカンファレンスを行い、利用者様の現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に、御本人・御家族と意見交換する場を設け、各協力機関より指示書をいただきながら、御本人がより良く暮らす為の介護計画を作成しています。又、ケアプランの見直しは、3カ月に1回、他その都度行い職員全員で意見交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容をチェックし、記録・評価・介護日誌や連絡帳を記録し、情報の共有を図っています。ご家族の細かなニーズがわかるよう用紙を作成ケース会議等を通し、介護計画の見直しにも活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しい情報を取り入れるよう努め、様々なニーズに応えられるように取り組んでいます。又、サービス付き高齢者向け住宅エルムの家と連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内にある医療機関(皮膚科)・介護タクシーの利用。時々飾るお花の購入やパンが好きな方も多く配達して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医の往診等、各医療機関との連携・協力・体制ができています。納得できる医療を受ける支援ができています。往診の際、必要時にはご家族も付き添い、症状の把握をしていただけるよう取り組んでいる。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、看護医療日誌を活用し、職員間での連携を図っています。又、各階に入居者様の体調面や様子を訊ねたり新型コロナウイルス対策についても細やかなアドバイスをもらい支援に勤めている。抗原検査やPCR検査の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者と情報交換、相談を行い早期退院を目指しています。新型コロナウイルスの影響で面会が難しい状況でした。入退院時必要があれば職員も同伴する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とのカンファレンスを予定し、必要に応じ文章や同意書を作成し、チームでの支援に取り組み、看取りに対して職員の研修の場を設けています。ご家族面会時や電話連絡にて様子をお伝えしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	札幌市防火管理者協会主催の研修会への参加。研修後は他職員へも研修内容を伝える場を設けイメージトレーニング、実践、理解に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全階あげでの避難訓練と、各ユニットごとに訓練を実施しイメージとレーニングに繋げています。必要物品の購入保存。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者様の人格の尊重やプライバシーの確保の大切さを理解し、言葉掛けや対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が乏しい利用者様はもちろん、困難な利用者様に対しても、行動や表情などから感じ取り自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の生活リズムを把握し、見守りながら介助することで、御本人のペースで生活できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理・美容室の利用支援を行う。季節にあった衣類の声かけ、行事の際には化粧する等楽しめる工夫をしています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	慢性疾患を持つ利用者様もおられるので、健康状態に合わせ医師に相談の上、調理盛り付けを工夫しています。又、片づけを手伝って頂くこともあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体状態を把握し、バランスの良い食事の提供をしています。(ミキサー食、ペースト食の提供)水分確保が不十分な利用者様には、ゼリーでの摂取の他、カロリー飲料の提供など工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科と連携し口腔ケアに取り組んでいます。できるところは自力で、必要に応じ介助しています。夕食後は義歯を預かり、1日おきに洗浄剤を利用し清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を利用して利用者様の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導等、自立にむけた支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握、記録と申し送り。医師より下剤の処方、看護師への相談調整を行っています。歩行運動や体操も行い予防に努め、食物繊維・水分に注意しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に出来る限り合わせ、対応しています。リズムを理解し、入浴を楽しめる工夫をしています。必要に応じて清拭を実施する等、清潔保持、気分転換につなげています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な寝具を提供し、週に1回交換をおこなっています。利用者様の好みの寝具を使って頂いています。専門の業者から常に清潔な寝具が届けられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局、薬剤師との連携を密に行い安全な服用に努めている。職員全員が、目的・副作用・用法・用量を理解しています。看護師と連携し、変更時も必ず確認しています。症状の変化についても十分留意し、記録や申し送りを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いやレクリエーション、リハビリ(運動)、カラオケ等を提供し、メリハリのある生活を目指しています。嗜好品や楽しみを提供する場も企画しています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策として基本的な感染予防行動を守りながら地域への散歩やドライブ、ベランダに出て外を眺める等気分転換に繋げていました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス対策として買い物希望される時には、ご本人からお金を預かり職員が対応していました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えます。リモートライン電話の利用推進。入居者様の様子に合わせて職員が生活の様子等手紙にし写真を同封する等の対応を行いました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や換気を十分に行いながら清潔で居心地良く過ごせるような工夫、環境づくりに取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人用の椅子を用意したり、仲の良い入居者様同士がゆったりと過ごせるような居場所の提供が行えています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた家具や小物、使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地の良い居室づくりに配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂、居室の場所などはわかりやすく表示し、安全で自立した生活が送られる様に支援しています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401194		
法人名	株式会社 はくりよう		
事業所名	グループホーム エルムの家 3階		
所在地	札幌市西区八軒5条東2丁目4番16号		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和顔愛語 ～思いやりの心～
---------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyoCd=0170401194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoyoCd=0170401194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和顔愛語」の理念を常に目に付きやすい所へ掲示しています。優しい笑顔と愛情のある言葉がけで接することがより良いケアにつながるという共通の認識を持って支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、エルム祭に町内の皆様を招待したり、定期的に地域住民や保育園児たちとの交流会がありました。コロナ禍以降はほとんどの行事を中止しておりますが、コロナ終息後には再開するように電話にて連絡をとっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資源回収への参加など、地域貢献しながら認知症の人の理解を深めてもらうように交流をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においては文書会議にて発信、意見交換を行いました。町内会、民生委員や地域包括支援センターなどから意見を頂き、サービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村へ相談しアドバイスを受け実施しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間の防犯のための施錠のみで、日中の施錠はしていません。居室の施錠もしていません。年に3回身体拘束についての研修を行い(コロナ禍の間は資料配布とレポート提出)拘束をしないケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行って学ぶ機会を持ち(コロナ禍の間は資料配布とレポートの提出)虐待の防止に努めました。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	冊子(成年後見人制度等)を目に付く所へ置き、ご家族の希望や質問に応えるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設を見学に来て頂き、ホーム長やケアマネージャーと面談を行い、十分な説明を行い、質問に答え、理解・納得後に入居して頂いています。必要時には文章を作成しご家族より署名、捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開き、意見交換や要望を話す場を設けています。コロナ禍において運営推進会議ができなかった間には、家族へのアンケートを実施することによって意見を運営に反映させるように努めました。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーが職員の声を聴き、ホーム長や理事長に相談し、可能なかぎり運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長(管理者)・理事長は、管理者会議などで個々の勤務状況や労働時間、給与などについて話し合い働きやすい職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ参加をサポートし(コロナ禍で制限ありましたが)個々のスキルアップに努めました。参加した職員は意見・感想など、レポートの提出などがあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区が主催の介護関係の研修会、勉強会などに積極的に参加し、自施設のサービスの向上に反映させていましたが、コロナ禍によって交流はわずかでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の送られてきた生活や環境を理解し、初期は特に対話し、安心できるよう傾聴しています。アセスメントを行い、本人の要望を汲み取り信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や電話連絡時にはご家族の気になる事、不安な事などを質問をいただきます。ご家族の気持ちに寄り添って返答し、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長・管理者・ケアマネージャー・ケアワーカーにて、カンファレンスを行い支援の話し合いの場を設け、体調面、精神面、生活の様子などから必要な支援を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を考慮しながら、押し付けにならないようにお手伝いやレクリエーションなどに参加をして頂き、共に暮らしているという感覚の関係性を大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話にてご家族に最近の様子を伝えていきます。入居者様が自分らしく暮らせるように、家族の意向を聞きながら共に支えていける関係を築くように努めました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人送られてきた生活を理解し、居室に家族の写真を飾ったり、本人の馴染みの品を居室に置くなどして、生活の場が継続できるように支援をしました。コロナ禍ではご家族との面会はリモート面会、または窓越しの面会を支援しました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者様同士の関係を把握しながら席を配置し、他者とうまく関わる事ができるように支援しています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状の送付やお見舞い、法要の際にはお花を届けたりしています。退所後も連絡をとり、ご家族の思いに傾聴するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の声の傾聴に努めている。言葉を発せなくても、表情などから本人の思いを汲み取るように努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を教えていただき、今までの経過を把握し、カンファレンスを行い、その人がその人らしく生活できるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を暮らしの中で生かしていけるように、アセスメントを行い、現在の身体の状態、精神の状態の把握をするように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に、御本人・御家族の意見、各協力機関の(医師・薬剤師等)指示書を頂き、御本人がより良く暮らすための介護計画を作成しています。又、ケアプランの見直しは、3カ月に1回、他その都度行い職員全員で意見交換しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡帳に記録し、情報の共有をしています。日常のケアの中で気になったことや、改善できそうなことを記入し、サービス担当者会議での見直しに活かし、ケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で直接面会が難しい中、オンライン面会など新しいツールを活用することにより、顔を見たい、声を聞きたいというニーズに答えました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、ほとんど実施できていませんでしたが、入居者様には外出できるようになったら買物などに行きましようと思いをかけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医の往診等、各医療機関との連携・協力・体制ができています。医師との信頼関係を築き、2週間に一度の往診を受け、緊急時対応の協力や特変時の往診など適切な医療が受けられています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の日々の体調の変化、身体状況の変化に注意し、看護師に報告・相談し、必要な処置を実施してもらっています。場合によっては適切な医療機関への受診ができるように支援してもらいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院関係者との情報交換をしっかりと行っています。早期に退院できるように相談もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、終末期支援の取り組みの説明を行っています。また、身体の重度化の際には医師・看護師を含めたカンファレンスを行い、家族の理解をいただいています。終末期には特に職員間で情報の共有に重点をおいて看取り介護に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各階から1名以上、札幌市防災管理者協会主催の研修会に参加し、学んだことを職員でシェアし急変時や事故発生に備えています。(今年は12月16日)		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルスの感染対策をしながら各階ごとに、火災・地震・水害・竜巻など各種災害に対する避難訓練を実施しています。災害時に必要な物品も備えてあります。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が個性やプライバシーを尊重した声掛けを配慮し、介助を行い個人の自尊心を傷つけないよう取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中や、言葉が出ない方でも小さなサインから、本人がどうしたいかの意思を汲み取り自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間はある程度のリズムを保ちつつ、食事や入浴など、本人の気分によっては時間をずらして支援することもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や、入浴後の服装はご本人の好みや意向を聞いて身支度を支援しています。理美容と連携があり、二か月に一度程度ヘアカットや顔そりも行っていきます。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる入居者様はいませんが、できる方には食器拭きを手伝っていただいています。お正月や、ひな祭り、土用の丑の日など、行事や季節のメニューなどを提供し、食事で季節を感じて頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養のバランスを考えてメニューを作成し、ひとりひとりの咀嚼・嚥下等の状態に合わせた食事形態にして提供しています。食事が取りにくい時には栄養補助食品を使用したり、水分が摂取しにくい入居者様にはゼリードリンクを提供して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きをしていただいています。自分で磨けない入居者様は職員が介助しています。うがいができない入居者様にはスポンジブラシを使用して口腔内の清潔を保っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが難しい方は、排尿チェック表を参考にトイレ誘導し、可能な限り自力で排尿ができる様に支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけでなく、マッサージや動かせる範囲での体操、お腹を温めたり、乳酸菌の摂取、食材の工夫と水分を多めに摂るよう支援することにより便秘の予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は寒さや羞恥心、お湯の温度などに配慮し、入浴中は職員との会話で楽しめるようにしました。入浴が嫌いな入居者様には、声掛けを工夫してスムーズに誘導できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に1度リネンを交換、汚染時にはすぐに交換し清潔を保持しています。個々のペースで就寝され、夜間トイレに起きる以外は安眠されています。ほぼ全員が昼食後に午睡され、1～2時間ゆっくりと休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療日誌や連絡帳にて入居者様の体調の変化を共有し、薬に変更があった場合には医師や看護師、薬剤師と連携しながら薬の目的、副作用、用量などを確認します。粉剤はとろみをつけて飲みやすくし、錠剤は口腔内に残っていないことを確認ししっかりと服薬を支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑誌、音楽、パズル、塗り絵等、個々の趣味を把握して楽しみを提供しています。できる入居者様には、洗濯物たたみや食器拭きなどの役割を提供することで生活に活力が湧くような支援をしています。		

グループホーム エルムの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、外出支援をしていますが、昨年と今年はコロナ禍によって長時間の外出は控えました。ベランダで日向ぼっこをしたり庭の花を見られるようにして気分転換になるように支援しました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が金銭管理が難しく、当フロアの入居者様で買物をしたいという方はおられませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があった時はかけるお手伝いをします。手紙が書ける方はいませんが、色画用紙などに名前だけでも書く事ができればそれを家族にお渡し、喜んで頂いています。家族から、手紙が来た時は、読んでさしあげています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は換気を十分に行い毎日の掃除によって明るく清潔です。壁には季節を感じられる掲示物、装飾を心がけ、イベント時の写真を掲示して楽しい雰囲気も提供できています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の身体、相性等を考慮した椅子・テーブルの配置をしています。会話が成り立たない場合でも穏やかに過ごせるような席に誘導しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きな小物や馴染みの物を置いています。壁には家族様の写真、きれいな花や風景のポスターなど飾り楽しんで頂いています。居室内は不要な物が出ないように整理整頓し、居心地よく過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついており、安全に移動できます。トイレや浴室は案内を大きく表示し、各居室には装飾したネームプレートを付け、分かり易くしています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム エルムの家

作成日：令和 5年 1月 31日

市町村受理日：令和 5年 2月 2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	家族や本人の意向を反映させ、1表と2表が連動した介護計画になるよう期待したい。	家族や本人の意向をより細やかなアセスメントをし、様々な情報を収集して計画を立てる。	計画作成担当者会議を近々開催して検討する。 サービス内容を職員全員が共有できるようにする。	3か月
2	23	全員のセンター方式シートの記録を充実させ、日々のケアや介護計画の見直しに活かせるよう期待したい。	利用者様の課題を把握し、その人らしさを大切に計画を立てる。	解決すべき課題をどの程度反映、達成できているか職員との情報を共有する。	3か月
3	4	事前にテーマを設定して質問や意見を聞いたり、議事録に参考資料などを添付して情報提供するなど、更に書面会議の内容が充実するよう期待したい。	文書会議を開催するにあたり、事前にテーマを設定し、広く質問や意見を参考にして情報提供をする。	案内に参考資料などを添付して情報提供するなどし、意見を募って議事録を充実させる。	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。